

「私のそばを離れなかった息子が
初日から目を輝かせて遊んでいました」
「子育ては、親と園が一緒にするもの。
僕もすっかり巻き込まれています」

野呂一輝さん
政江さん
一翔くん(5歳)
沙奈ちゃん(2歳)
岡山市在住



一昨年の夏、ご主人の一輝さんの転勤で神奈川から岡山にやつてきた野呂さん家族。当時3歳だった一翔くんは、母親の政江さんのそばを片時も離れず、言葉の習得が遅いのも悩んでいた。地域情報紙でアースエイトを知り、親子で訪ねてみると、「絶対に私から離れなかった一翔が1時間以上も、それも男の先生と遊んでいたんです」と、目を輝かせる息子の様子に驚いたといいます。

「本当は、そのときから心は決まっていたんです。でも、経済的なことも考えて、一翔は地元幼稚園に入れ、夏休みや冬休みだけ、ここに通わせていました」と政江さん。ところが、長期的視点で保育を行うため、アースエイトが「時預かりをやめることになり、息子をどちらに通わせるか決めることになり、「正直、中学校くらいからの環境が大事で、保育園や幼稚園なんて、どこでも同じだろう」と思っていました。この園のことも半信半疑。でも、時預かりで通い始めてすぐに息子の表情が変わりました」と一輝さん。夫婦でじっくり話し合い、今年2月から、一翔くんと妹の沙奈ちゃんは毎日アースエイトに通っています。

一翔くんの変化について、「何より、笑顔に輝きが増えました。一人で考えて工夫して遊ぶ時間も増え、以前は、言葉で説明するのが苦手だったのですが、今は「生懸命に伝えよう」とします」と政江さん。ほかのお母さんに「翔くんって、お父さんがおしゃべりなの？ よくしゃべるよね」と言われ、「あのころの悩みは何だったの？ 良かったら教えてください。」

英語力についても、「発音がきれい、吸収も速い、日本語もままならなかった一翔の口から英語が出るようになって、沙奈にDon't touch please(触らないで)と言うと、沙奈も理解して手を離します。娘が家で歌う歌は全部が英語なんです。」

「アースエイトの良さは完成されていないこと。常に新しいもの、良いものを探して取り入れていて、先生方の保育に対する情熱や姿勢が素晴らしい。そういう大人を見て、子どもが育つことが一番の魅力です」と政江さんが言う。先生たちが常に良い保育を模索しながら頑張っているのを見ると、僕たちも、既成概念に捉われないで、いろいろやってみようと思えてきて、すっかり巻き込まれています」と一輝さん。「親も教育されているというか、親も一緒に育つていく実感があります。子育ては、保育園に委ねるのではなく、親が主体となって、園のアシストを受けながら、園と一緒にやってみようという気持ちになりました。自分でも変わりますが、僕はアースエイトと出会って変わりました(笑)」

「受け身ではなく、やりたいことを自分で選んでいく、主体性のある生き方をしてほしい。自分の人生を、幸せを自分でつくっていく人間にならしてほしい。それが二人の願いです。」

一昨年の夏、ご主人の一輝さんの転勤で神奈川から岡山にやつてきた野呂さん家族。当時3歳だった一翔くんは、母親の政江さんのそばを片時も離れず、言葉の習得が遅いのも悩んでいた。地域情報紙でアースエイトを知り、親子で訪ねてみると、「絶対に私から離れなかった一翔が1時間以上も、それも男の先生と遊んでいたんです」と、目を輝かせる息子の様子に驚いたといいます。

「本当は、そのときから心は決まっていたんです。でも、経済的なことも考えて、一翔は地元幼稚園に入れ、夏休みや冬休みだけ、ここに通わせていました」と政江さん。ところが、長期的視点で保育を行うため、アースエイトが「時預かりをやめることになり、息子をどちらに通わせるか決めることになり、「正直、中学校くらいからの環境が大事で、保育園や幼稚園なんて、どこでも同じだろう」と思っていました。この園のことも半信半疑。でも、時預かりで通い始めてすぐに息子の表情が変わりました」と一輝さん。夫婦でじっくり話し合い、今年2月から、一翔くんと妹の沙奈ちゃんは毎日アースエイトに通っています。

一翔くんの変化について、「何より、笑顔に輝きが増えました。一人で考えて工夫して遊ぶ時間も増え、以前は、言葉で説明するのが苦手だったのですが、今は「生懸命に伝えよう」とします」と政江さん。ほかのお母さんに「翔くんって、お父さんがおしゃべりなの？ よくしゃべるよね」と言われ、「あのころの悩みは何だったの？ 良かったら教えてください。」

英語力についても、「発音がきれい、吸収も速い、日本語もままならなかった一翔の口から英語が出るようになって、沙奈にDon't touch please(触らないで)と言うと、沙奈も理解して手を離します。娘が家で歌う歌は全部が英語なんです。」

「アースエイトの良さは完成されていないこと。常に新しいもの、良いものを探して取り入れていて、先生方の保育に対する情熱や姿勢が素晴らしい。そういう大人を見て、子どもが育つことが一番の魅力です」と政江さんが言う。先生たちが常に良い保育を模索しながら頑張っているのを見ると、僕たちも、既成概念に捉われないで、いろいろやってみようと思えてきて、すっかり巻き込まれています」と一輝さん。「親も教育されているというか、親も一緒に育つていく実感があります。子育ては、保育園に委ねるのではなく、親が主体となって、園のアシストを受けながら、園と一緒にやってみようという気持ちになりました。自分でも変わりますが、僕はアースエイトと出会って変わりました(笑)」

「受け身ではなく、やりたいことを自分で選んでいく、主体性のある生き方をしてほしい。自分の人生を、幸せを自分でつくっていく人間にならしてほしい。それが二人の願いです。」

今年の秋で開園から2年を迎えるEarth8ight(アースエイト)。子どもの育ちと家族の願いにじっくり向き合い、園児一人ひとりの可能性を引き出すカスタマイズド保育が少しずつ実を結んでいます。今回は4歳の園児の英語力に注目し、成長の記録をたどります。

001 2015.11.20

Earth8ight と出会って 6 カ月。よく耳にする簡単な質問は意味を理解し、Yes・No か日本語で答えていた。単語の習得スピードがとて速く、青いものを指さして Blue と答えるまでに成長。

002 2015.12.8

先生が話す言葉の理解度が大幅にアップ。先生の目を見ながらよく聞き、言われたことをほぼ 100%理解して、彼なりのコミュニケーションの形が出来上がっていた。

003 2016.2.15

1月からフォニックス(綴り字と発音の間の規則性を学ぶ学習法)を取り入れ、文字と音の関係を学び始める。1カ月後の認識度チェックでも、かなり理解が進んでいた。

004 2016.6.3

今年に入り、物語として成り立っているレベルの高い絵本を、何度も先生に読んでお祈りするようになり、先生が読むときの音をしっかりと聞き、今ではストーリーを完璧に理解している。

005 2016.6.6

単語がどういふ音でできているのかを理解し始め、認識度チェックも高得点。文章から単語を分けていくのも、単語を音に分けていくのも得意。英文読解の基礎が確実に育っている。

今年に入り、物語として成り立っているレベルの高い絵本を、何度も先生に読んでお祈りするようになり、先生が読むときの音をしっかりと聞き、今ではストーリーを完璧に理解している。

お気に入りの「TEN LITTLE PRINCESSES」。表紙がピンクなので、「ピンクプリンセス」と呼んでいる。

卒園のころには、簡単な絵本が読めるように

孫和くん(4歳)の英語力成長の記録

※先生は、一日中ずっと笑顔

今後のプラン for Mago

卒園のころには、簡単な絵本が読めるように

孫和くん(4歳)のリスニングのスキルは、一緒に過ごせば勝手に伸びていく段階にきています。会話でも、「こうやって答えていいんだよ」と教えると、すぐに口に出して、どんどん覚えていくので、しゃべる機会をもっと増やせるような環境をつくっていきたい。最近、彼に感動したのは、おやつのとき、もっと食べたいときに、簡単な「More please.」はこれまでに教えたが、彼が言ったのは「Three more please.」(あと3つちょうだい)。自分で考えて、数字の3をつなげた正しい英語にしてしゃべったのです!

今後は、アルファベットはシンボルで、そこに音が付いてくることを教えていきます。そこから文字を読む力を伸ばし、卒園のころには、簡単な絵本なら、自分で文字を追って読めるようにするのが目標です。(Mari 先生)



國嶋真弓さん
晟生くん(6歳)
岡山市在住

震災後、福島から家族で移住
外で思いきり遊べる安全な環境で
息子の成長に驚きと喜びを感じています

5年前の東日本大震災で起きた原発事故そのとき、國嶋さん家族の家は、福島第3原発から60キロほど離れた自主避難区域にありました。「逃げるのも逃げないのも自己責任で、これからどうやって生きていけばいいか、絶望的な気持ちでした」と、母親の真弓さんは当時を振り返ります。1年は福島に住んだものの、不安は大きくなればかり、震災の翌年に、娘さん2人と息子の晟生くんを連れて、山形県米沢市に母子避難しました。

福島とそれほど離れていない山形に避難しても、不安は消えなかったという真弓さん。「私の不安が子どもたちにも伝わっていたのか、誰の顔にも笑顔がなくなっていました」

そんな避難生活の中で、夏休みに親子で参加した北海道の保養プログラムで出会ったのが、自然食料理人で、岡山県高梁市で百姓屋敷わらを営む船越康弘さん。「本当に良かった時期に船越さんの講話を聞き、自然食や、自然の恵みに感謝するわらの考え方に、岡山という土地にも、何か心引かれるものがありました。その後のご縁もあって、夏休みを岡山で過ごすようになり、子どもたちも、わらで過ごす時間が大好きでした」

山形での避難生活が3年になるころ、國嶋さん家族は大きな決断をします。ご主人も福島での仕事を辞め、家族全員で岡山に移住することにしました。「もう福島には戻れない。福島で子育てはしたくないと感じていました」と真弓さん。外で思いきり遊べる安全な環境で、子どもたちに好きなことをやらせてあげたいと思いつき、移住先は岡山以外に考えられなかったそうです。

昨年3月、わらとの出会いがきっかけで岡山に移り住んだ真弓さんと、わらの考え方を園児の食に取り入れているアースエイト。ここでも新たな縁が生まれ、真弓さんは、わらの調理法を学びながら、アースエイトのおやつ作りを担当するうちに、晟生くんも園に通っています。

「東北では我慢させてばかり。福島では、いつもスクとして、肌を出してはダメ、雨に濡れてはいけない、窓も開けられない。震災のとき、晟生はまだ10カ月で、ちよび歩けるようになったら、ずつと家の中に閉じ込めていたので、足腰が弱くなったんです。山形に避難して外に出られるようになると、しよちゅう転んで頭や顔に大ケガをしていました。体も弱く、入退院を繰り返して、晟生くんが、ほかの園児が憧れるほど運動のできる、頼れるお兄ちゃんといわれることが、いまだに信じられないのだとか。

「アースエイトに通うようになって、晟生の表情が豊かになって、感情表現をするようになりました。言葉数も増えて、みんなと遊んでもらえるほど運動神経も良くなり、英語にもっと興味を持っています。先生たちが晟生の能力をどんどん引き出してくれているのだと思います」と真弓さん。息子の急成長ぶりに驚きと喜びを感じる毎日です。

毎日が始まるので国内留学。ネイティブの先生が話すナチュラルスピードの英語を、ぐんぐん吸収していきます

園児一人ひとりの成長の瞬間を見逃さない
カスタマイズド保育だから伸ばせる英語力

体を動かすことも大切にしています

知育(頭)・徳育(心)・体育(体)のバランスが取れた保育を実践



園庭は隣接する広い田んぼ

男の子たちは、泥んこ遊びに夢中

外遊びも毎日。園のあるビルの目の前には、800㎡を超える広い田んぼが広がっています。この特別な園庭は、園児たちの最高の遊び場です。草の上を走り回ったり、小さな虫を見つめたり、大きなビニールプールに錦鯉を放して観察したことも。中でも、男の子たちが夢中になっているのは、水着に着替えての泥んこ遊び。ホースで水を引き入れ、全身泥だらけになって、思いっきり遊びます。家では絶対にできない遊びだけに、この日も、みんな目を輝かせていました。



運動能力を高める「ゆめスポ」

自信と、挑戦する心が育ちます

ゆめスポは、スポーツ科学に基づき、子どもの運動神経を高めて育てるプログラムです。NHKの「助けて! きわめびと」でも、運「脳」神経の育て方を紹介した東京大学の深代千之教授が監修。専用の教材を使い、走る力や投げる力といった基礎力を育みます。運動ができる、子どもに自信が生まれ、より高いレベルにチャレンジする挑戦心が育ちます。そして、すべての子どもたちに本来備わっている運動神経が高められ、引き出されていきます。卒園児には、小学校の体育の授業でヒーローになった子ども。



5月の最終日は「鯉つかみ」に挑戦! 鯉の大きさは50cmと40cmと26cmです!

家族とつながる保育レポート

動画が大好評! 園児の様子を毎日配信

日々成長する子どもの様子を家族に届けたいと、開園時から導入されている保育レポート。保育スタッフが撮影した園児の写真や動画に、その瞬間のスタッフの気づきや思いを添えて、毎日保護者に配信されます。最近、映像と音声で伝える動画が大好評! 深夜に帰宅するお父さんも、「昨日、〇〇〇できたんだって?」と、翌朝お子さんと共通の話題で話ができ、離れて暮らすおじいちゃん、おばあちゃんも、お孫さんの写真や動画を見るのを楽しみにしています。



自然と触れ合う「森のほいく」

バスに乗って、海や山に遠出をします

自然体験が幼児教育に欠かせない大切なものと考えるアースエイトでは、普段から公園や散歩に出かけて自然と触れる機会をつくっています。さらに、月に1、2回はバスに乗って、海や山に遠出をする「森のほいく」を実施。森の中を歩いたり、川の中にすむ魚を観察したり、新しい発見と気づきがいっぱいの自然の中で、子どもたちの五感は大いに刺激されます。写真右: 木登りが得意な言葉ちゃん(4歳)は、先生たちが見守る中、海岸の崖を簡単によじ登り、みんなを驚かせました。

保護者インタビュー Vol.3

自分らしく、伸び伸びと育てほしい 親業の考え方に深く納得し、 6カ月から年中まで通った幼稚園を転園

花山明子さん
沙和ちゃん(5歳)
岡山市在住



小学校入学前の1年間をアースエイトで過ごすため、6カ月から年中まで通った幼稚園を転園してきた花山沙和ちゃん。今年4月、アースエイトに入園しました。

子どもの教育方針について「自分らしく、伸び伸びと育ててほしい」というのが、私と主人の共通の考えです。でも、そのために具体的に何をしたらいいのか、ずっと手探り状態でした。と話すのは、母親の明子さん。子どもの個性を尊重したいように、でも、しつけはきちんとしたい、という考えをみよるもの、「自己肯定感を持たせることは難しい」と感じていたそうです。

そんなとき、偶然目にした育児情報誌に、アースエイトの情報が掲載されていました。「読んでみて、この園は、うちの教育方針に合うかもしれないと思いました。気がなつたので問い合わせをして、沙和を体験に連れていってみると、本人が「アースエイト」に行きたいと言いました。主人に園の話をする、沙和に合っているんじゃないかと、転園に賛成でした」

周囲の反応は意外にも好意的でしたが、自身の中に迷いがあり、すぐには決められませんでした。しかし、この時間は、子どもの教育について、再度じっくりと考える良い機会になったといえます。そして、園長と話をすることで、明子さんの胸にすんと落ちてきたのが、アースエイトが大切にしている親業の考え方でした。

親業は、子どもの気持ちを受け止めて尊重しながら、親子のやりとりを無理なく運んでいくためのコミュニケーション法。アメリカの臨床心理学者トマス・ゴードン博士が考案したもので、親子に限らず、すべての人間関係を円滑にする方法論です。親業を学んでいるアースエイトの保育スタッフは、園児の気持ちをしっかりと聞き、思いを受け止めて尊重しながら、自身の気持ちもきちんと言葉と表情で伝えていきます。心を真つすぐ伝える接し方を、いつも心掛けていたのだそうです。

「親業の考え方に、すごく納得がきました。親も一緒に成長ができる環境の中で、子どもを育てたい、と思いました」と明子さん。沙和ちゃんの転園を決めると、入園と同時に、親業訓練講座の受講も始めました。

アースエイトに通い始めてまだ2カ月。「決められたことをするのは、自分を自分で選ばないといけないのが大きいですね。沙和は、まだ抵抗があるようですが、大人になれば、自分で人生を決めていかないとけないので、しっかりと選べるようになってほしい。私も、まだ始めたばかりですが、親業を学んで、自分より冷静に見られるようになってほしいと思います。私から話を聞いている主人も、もっと親業について知りたくなったようです。沙和ちゃんにとっても、ご夫妻にとっても、変化の大きな年になりそうです。

親が参加できる学びの場や交流イベントを実施



お父さんも一緒に、家族で過ごす「アースナイト」



お迎え前に「親のための英語レッスン」

親と園と一緒に子どもを育てるアースエイトでは、保護者同士が交流できるイベントを積極的に開催しています。パパ会やママ会のほか、夕方にスタートする「アースナイト(夕食会)」は、仕事帰りのお父さんも参加して、家族がみんなで過ごす大切な時間です。「人見知りなので、パパ会なんて勘弁してよと思ったのですが、行ってみると、みなさん同じような悩みを抱えていて、父親同士の結束が強くなりました。午後4時～8時の予定が、終わったのは夜9時!」と、野呂一輝さん(P.15)が笑いながら話してくれました。

月に2回、お迎え前の時間に、希望する親を対象にした英語レッスンが行われています。英語教育の専門家、バイリンガルのMari先生が、家でも親子で英語を学べるように、実践方法などを紹介してくれます。息子さんの上達スピードがとて速く、焦って参加するようになったというお母さんは、「家で英語を話す機会が増えて、発音も良くなった気がします。夫も蚊帳の外は寂しいのか、最近、息子の英会話に参加してきます」と、レッスンの手応えを感じているようです。

託児保育園 Earth8ight アースエイト

【住所】岡山市北区下中野 1200-4 4F
【TEL】086-242-3318
【担当責任者】澤 貴廣 | 直通番号 080-6776-7720
【受付時間】月～金 9:00～18:00
【対象年齢】離乳食の終わった1～5歳
【HP】http://www.earth-8.com

1日1組限定でオープンスクール開催中

【保育概要】
●保育時間
【1カ月保育】月～金 9:00～16:30
【週1保育】選んだ曜日で 9:00～16:30
※通園日数は週1日以上で応相談。
●随時、入園可(入園待ちのクラスあり。要確認)
※見学はHPまたは電話で予約を。

